

高齢になっても住み続けられる住環境についての基礎研究 ー若年・中年居住者のアンケート調査による検討ー

石沢 葉^{1) 2)}, 川口 徹^{1) 2)}, 相馬 正之^{1) 2)}, 木村 文佳^{1) 2)},
吉田 司秀子^{1) 2)}, 工藤 健太郎¹⁾, 遠藤 陽季¹⁾, 金澤 遼太¹⁾

1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科

2) 青森県立保健大学健康科学部理学療法学科

Key Words ①住環境 ②高齢者 ③環境支援

I. はじめに

我が国は超高齢社会を迎えて久しく、高齢者の居住の場は多様化している。しかし、依然として高齢者の持家率は8割を超えていること、身体機能が低下した場合に、自宅に住み続けていたい気持ちを持つ高齢者は6割近いことが分かっており、高齢になっても住み続けられる住まいの検討は重要である。国土交通省では、高齢期を迎える前の段階で、高齢期の住まいや住まい方を選択したり、住まいの改修を行ったりすることを勧めている¹⁾が、高齢期を迎える前の居住者の意識は明らかになっていない。積雪寒冷地では気候条件により住宅様式に特徴があり、高齢者が住み続けるための課題がさらに多くなると考える。これらの明確化は、設計段階からの高齢期を見据えた住環境整備のために重要である。

II. 目的

高齢になっても住み続けられる住環境についてどのような環境を重要視しているか若年・中年居住者の意識を明らかにすること、異なる地域の意識の相違を明らかにすること。

III. 研究方法

本研究は無記名 Web アンケート調査を用いた横断的な観察研究である。対象者は、25歳以上65歳未満かつ5年以内に住宅の購入またはリフォームの経験がある若年・中年居住者とした。調査地域は積雪寒冷地として青森県、温暖地として千葉県を選定した。

調査項目について、基本属性は年齢、職業、住まいの形態、同居者の種類、65歳以上の同居者の有無を尋ねた。高齢になっても住み続けられる住環境について、1:まったく重要だと思わない～5:とても重要だと思うの5件法で質問した。質問紙は日本サステナブル建築協会が提示するCASBEEの「健康チェックリスト」²⁾、「高齢期の住まいチェックリスト」³⁾を参考にした31問と、独自の調査項目の7問を追記した全38問から構成した。大項目は居間・食堂、寝室、キッチンなどの空間別、間取りや建具、介護対応などを含む10項目であった。さらに自由記述として、高齢になっても住み続けられる住環境について重要だと思う住環境を尋ねた。

データは、クロス・マーケティング社の登録モニターを対象に収集し、各群151件、計302件の回答が得られた時点で調査を終了した。なお、積雪寒冷地の青森県においては、サンプル数の確保が困難であったため、近隣秋田県からのサンプルを補填した。実施期間は2024年7月26日

から 8 月 2 日であった。

質問紙については 5 件法の回答をまったく重要だと思わない: 1 点～とても重要だと思う: 5 点に得点化し、積雪寒冷地と温暖地との比較を Mann-Whitney 検定にて行い、解析には IBM SPSS version27.0 を用いた。自由記述回答については頻出語句、共起関係を確認するためテキストマイニングを行い、解析には KH Coder 3 を用いた。本研究は、青森県立保健大学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号: 24010）。

IV. 結果

解析対象は 287 件（積雪寒冷地 141 件、温暖地 146 件）であった。住まいの形態について、新築・中古の一戸建てに住むものは積雪寒冷地で有意に多く、新築・中古のマンションに住むものは温暖地で有意に多かった。

高齢になっても住み続けられる住環境について、重要度を得点化した結果では、「脱衣所が寒い」、「浴室が寒い」、「トイレが寒い」、廊下・階段で「部屋を出たときに寒い」、「部屋を出入りするときに段差がない」、玄関で「玄関から室内にあがるのに大きな段差がない」、「照明があり足元の暗さを感じない」、間取り・建具の項目で「ドアが引き戸である」、介護対応の項目で「介護者が手伝うのに不自由のないトイレの広さがある」、「介護サービスなどの自動車が駐車する場所がある」、「居間・寝室などに介護用ベッドを設置する広さがある」の計 11 項目で温暖地に比べて積雪寒冷地で有意に得点が高かった。

自由記述回答の有効回答数は 151 件であり、頻出語句上位 3 語は「バリアフリー」、「段差」、「平屋」であった。共起関係を示す語句の中から、「近所一付き合い」、「階段ー移動」のグループを抽出した。

V. 考察

脱衣所、浴室、トイレ、廊下・階段の空間において、温暖地に比べて積雪寒冷地で各空間が寒いことを重要視していた。寒さに対応する暖房設備や住宅の断熱性能への取り組みは積雪寒冷地の方が充実していることは推測できるが、居住空間以外の脱衣所や浴室、トイレ、廊下・階段においては居間との温度差が生じ、さらに冬季間ではその温度差が大きくなるため、積雪寒冷地で温暖環境をより重要視していることが考えられた。また、玄関が暗くないことを積雪寒冷地の方が重要視していた。積雪寒冷地の日照時間は温暖地に比べて短く、日常的に室内の暗さを感じやすいことが影響したと考えられた。また、本結果から介護対応の項目では、積雪寒冷地では温暖地に比べて屋内外の住環境において空間が確保されていることをより重要視していた。これは、積雪寒冷地の調査地域では温暖地よりも延べ床面積や敷地面積が広く⁴⁾、普段生活している住宅内、外の広さに対する感覚が積雪寒冷地と温暖地では異なり、介護対応を考慮した際にも広さの確保を意識するものが多くなったことが考えられた。

自由記述回答では、頻出語句と共起関係から抽出した語句のグループより、「バリアフリーであること」、「平屋であること」、「段差がない、少ないこと」、「階段の移動がしやすいこと」、「近所付き合いがあること」を重要視していると特徴づけた。若年・中年居住者の多くは移動のしやすさを重視し、段差や階段による転倒リスクを想定しており、高齢になっても歩行で移動することを前提にしていると考えられた。実際、本邦における道路から玄関まで車いすで通行可能な住宅

は 12.4%であるとの報告がある⁵⁾。これは住宅設計においても、基本的には歩行での移動手段を想定しており、車いすの使用が必要になった際に初めて構造的な問題に直面するものとする。高齢者向け住宅の整備は進められているが、仮に施策が順調に進んだとしても、高齢者人口の約 5%しかカバーできず、大半の高齢者は現在の住まいで老後を送る必要があるとされており、⁶⁾ 車いすが使用できる住環境であることは今後益々重要となると考えられる。さらに居住者たちは、高齢期を迎える前の段階では、将来的に住み替えや改修をすればよいと考えていても、高齢になるにつれて住居への愛着が強まり、住み替えや住宅改修に対する抵抗が生じることも示唆されている⁷⁾。こうした背景も踏まえ、居住者が設計段階で高齢期に備えた住環境整備を行う選択肢を持つことの重要性が改めて支持されたと考える。

今後は医療・建築関係の専門職に対する意識調査も踏まえ、設計段階からの高齢期対応の住環境整備の重要性を高めるための情報提供や動機付け支援の方策を検討していく必要がある。

VI. 文献

- 1) 内閣府. 平成 27 年度第 8 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果, <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h27/zentai/index.html> (2024.12.25 引用)
- 2) 一般社団法人日本サステナブル建築協会. CASBEE-健康チェックリスト, https://www.jsbc.or.jp/CASBEE/health_check/list.php (2024.4.1 引用)
- 3) 一般社団法人日本サステナブル建築協会. CASBEE-高齢期住まいチェックリスト, https://www.jsbc.or.jp/research-study/casbee/kourei_checklist/webtool/index.html (2024.4.1 引用)
- 4) 国土交通省. 令和 5 年住宅経済関連データ, https://www.mlit.go.jp/statistics/details/t-jutaku-2_tk_000002.html
- 5) 総務省統計局. 平成 20 年住宅・土地統計調査, https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2008/10_3.html (2025.1.15 引用)
- 6) 阪東美智子. 居住環境分野から: 安心安全な高齢者の「住まい」の整備, 保健医療科学, Vol6 5, No1, 2016
- 7) 鈴木晃. 高齢者の居住継続支援のための住宅対策—「住まいとケア」の関係を確認したうえで—, J.Natl.Inst.Public Health, 58 (2), 2009

VII. 発表 (誌上発表、学会発表など採択年度から過去 2 年間の実績を記載してください。)

高齢になっても住み続けられる住環境についての基礎研究 —若年・中年居住者のアンケート調査による検討—, 日本ヒューマンケア科学学会第 17 回学術集会, 令和 6 年 12 月 21 日

連絡先

研究代表者: 石沢 栞

研究責任者: 川口 徹

所属住所: 青森県青森市大字浜館間瀬 58-1

E メールアドレス: ishizawa@ms.auhw.ac.jp